令和６年度　曲川小学校研究計画

１．研究主題

わかる楽しさを味わえる算数科の授業づくり
～個別最適な学びの充実を通して～

２．主題設定の理由

（１）教育の今日的課題

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和３年１月２６日中央教育審議会）において、

> 人工知能（AI），ビッグデータ，Internet of Things（IoT），ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり，社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

と指摘されている。また、**「個別最適な学び」**について、

> 「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導すること。

の重要性が指摘されている。また、

> 現在，GIGA スクール構想により学校の ICT 環境が急速に整備されており，今後はこの新たな ICT 環境を活用するとともに，少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め，「個に応じた指導」を充実していくことが重要である。

とあるように、刻一刻と変化し続け、多様化していく社会に対応できる力を育てていく必要がある。

先述の答申において、**「個別最適な学び」**について以下に述べられている。

> 全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

> 「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であり，この「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が**「個別最適な学び」**である。

つまり、「指導の個別化」と「学習の個性化」の両方の視点から、**「個別最適な学び」**が実現されるということである。

（２）児童の実態から

本校の児童は、明るく素直で、授業中もしっかりと話を聞くことができる児童が多い。しかし、発言する児童が限られていたり、学習に対する意欲が低く、主体的に学習に参加できていなかったりする児童も見られる。授業内容がわからない児童はノートを書かず、思考を止めている姿も見られ、学習面、態度面で課題がある。また、令和５年度のＣＲＴ（標準学力検査）において、すべての学年と教科において全国平均を下

回る結果となった。

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生
国語	0.91	0.94	0.85	0.95	0.88	0.94
算数	0.91	0.88	0.89	0.90	0.83	0.96

この結果から、児童の基礎的・基本的な知識・技能を高めることに課題があると考えられる。〔（　）内は全国平均を１としたときの得点率を表している。〕また、問題がわからないという原因だけでなく、問題に粘り強く取り組む態度面でも課題が見られた。本研究を通して、個別最適な学びの充実を図っていき、情意面でも「わかった」「できた」という成功体験を積ませることで、学習に対する意欲を高めたり、主体的に学ぶ態度の育成を図ったりしていきたい。昨年度は、算数の授業の基本的な流れやノートの書き方を確認し、全校で統一した。さらに、問題解決の場面で、ヒントカードを準備したり、先生や友達と一緒に考えたりするなど、様々な学習方法を提示した。児童も学習方法に慣れてきているため、これまでの研究を継続しながら、さらに個別最適な学びについて知見を深め、効果的な指導方法について考える必要がある。以上のことから、今年度も、研究主題を「わかる楽しさを味わえる算数科の授業づくり～個別最適な学びの充実を通して～」と設定した。

３．研究の目標

算数科学習において、「個別最適な学び」を取り入れた授業づくりを行うことで、児童一人一人がわかる楽しさを味わえるようにする。

４．研究の仮説

算数科授業の学習過程の中に、個別最適な学びを充実させることで、児童一人一人が基礎的・基本的な知識・技能を習得し、わかる楽しさを味わい、主体的に学ぶことができるであろう。

５．研究の内容と方法

（１）学年・領域ごとに応じた個別最適な学びを取り入れた授業実践

・「わかる」を育てる学習過程の改善
・個別最適な学びの充実を図るための教材研究
・算数アンケートの実施と分析（調査部）

（２）個別最適な学びを充実させるための一人一台端末の活用方法の模索

・一人一台端末の活用方法の模索と共有
・AI 型教材「キュビナ」の活用方法の模索

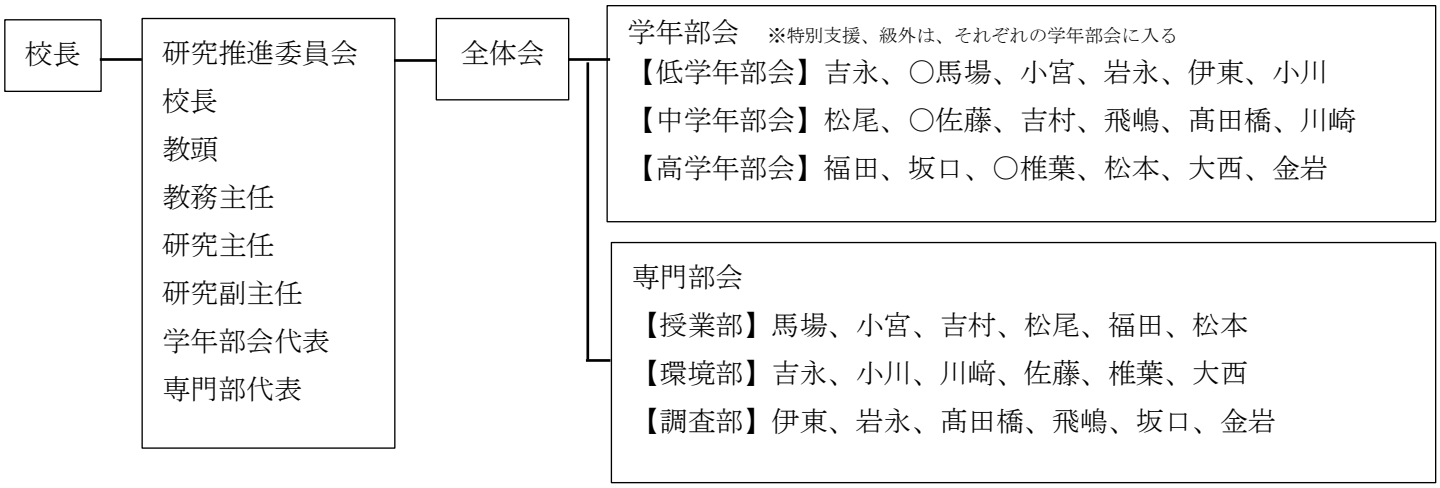
（３）問題解決型授業スタイルの共有及び活用

・１単位時間の授業において、基本的な学習過程「西部型授業」（つかむ、見通す、考える、考え合う、振り返る）の組み立て方の共有

（４）学習環境づくり

・児童の学び方の統一（授業部）前年度（板書・ノート・算数のしるし・ふり返り）
今年度（授業始まりのあいさつ・話の聞き方・友達と考えるときの学び方など　学習ルールの検討）
・児童が興味、関心をもつ算数コーナーの設置（環境部）

６．研究の組織　　※　○印は代表者



７．授業計画

提案授業	提案授業	福田	5 月 22 日（水）	指導案
代表授業	校内全体研	低中高から１本	1 学期中	指導案
代表授業	公開授業	低中高から２本	2 学期(10 月 31 日予定)	指導案
SG 授業	SG 研	代表授業者以外全員	1 学期～２学期	略案